

巻頭言

謝辞ならびに会費値上げのお願い

グローバルゼーションが云々ということを書いたのは2001年。社会のいろいろなセクターで従来モデルではもはやうまくいかないよね、という気分が広まった小泉政権発足のころ、伝統的労働奉仕型村社会手弁当システムじゃ我々もまわらないよね、という愚痴を書いた。そんな昔の記事を引っ張り出すはめに至ったのは、ひょっとしたらまた同じことを書いてるんじゃないかな、とふと思いついたからである。

当時、事務基盤が貧弱な惑星科学会は文字通り、このままではうまくいかないよね、に瀕していた。会費徴収等を業務委託した学会事務センターはインターネット以前の旧式で、当時の山本会長近傍の多大な労働無くしては使えないような代物であった。旧式であることそれ自体は当時としては仕方がなかったが、旧式であることに自覚的でなく台頭しつつあるインターネット化への展開がまったく見られなかったことには驚いた。しかたがないので、惑星科学会が行ったことは、全国に散らばる運営委員による遠隔運営を円滑にすすめるための情報環境の整備、つまり、惑星科学会インターネットサーバーの立ち上げ、とそれを引き受けてくれるような業務委託先を探すことであった。インターネットサーバーによる学会支援なんてまだあんまり実現してなかった2000年秋に、システム構築からこれを引き受けてくれたのはイーサイド社の荒井社長である。荒井さんに救済お願い(つまりよほどうまく行かぬきゃ儲からない話)したのは、実は、個人的には三度目であった。合同大会1999北大LOCにおける参加発表登録の電子化を当時JCOM社におられた荒井さんをお願いしたのが最初、合同大会 LOC の大学持ち回りが継続不能になった2001年以降に向けて大谷連絡会会長案のための実行可能プラン策定をお願いしたのが二度目。合同大会システムは改良が加えられて現在の連合大会運営でも使われているようであるが、連絡会提案の方は参加費一万円越えの批判を受けこれを救済する東大有志案にとって代わられた。冒頭紹介の愚痴は、そのころ書かれたもので、コスト削減を研究者の努力で行うのはいい加減に止めて出来るだけ省力化しておかないと激動の時代に耐えられまへんで、と言ったものである。

さて、惑星科学会はイーサイド社とその提携先の現在ドクタイプ社の室崎さんによるシステム構築でもって支えられ、2001年度末には学会事務センターからの離脱が完了した。幸運であったのは2004年8月の学会事務センター倒産事件から無縁でいられたことであろう。システムはその後も改良を加えつつ、秋の講演会参加発表登録機能を追加し現在に至っている。特記しておくべきことは、惑星科学会はこの構築費用のほとんどを負担して来なかったし、会費徴収等の事務委託費に関しても大幅な割引をお願いして来たことである。システム構築に際し運営委員会情報部が適宜アドバイスを与え、イーサイド社がこれを実装し業務運用実験を行う相互(?)援助という形式をとっていたわけだ。システム運用開始から5年を経て、さすがにいつまでも甘えてるのは恥ずべき状況になってきている。まずはこれまで惑星科学会を支えてくださったイーサイド社の荒井さん、木田さん、そして、ドクタイプ社の室崎さんにこの場を借りて感謝の意を表したいと思う。

現在、このような状況を含む学会諸事業の現状を踏まえ、会費値上げを行うことが第8期運営委員会からの宿題として我々に託されている(2006年秋の総会議事録参照)。値上げによる会員数減少を危惧する声も聞かれんではないが、学会維持のために人々が疲弊しちゃったのでは元も子もない。基盤を強化することで本来行うべきことに人々のエネルギーを向けてもらうべく、ここは皆さんの御理解御協力をお願いするしかないかなというわけで、

林 祥介(北海道大学)